

# 長期戦略:テーマ 「正課外教育の推進」

提出日 2022 年 8 月 24 日

担当部署

## Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	古川学生活動支援機構長 (学生活動支援機構)	実施計画の 担当部署	学生活動支援機構
-----------------------	---------------------------	---------------	----------

### 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(8)-① スポーツ振興・統括課の設置および正課外教育のプログラム化(スポーツ)	2019 年度	2024 年度	必要なし	不要
<p><b>内容</b></p> <p>新たな時代に求められている資質のうち、自律的に行動する力など汎用的能力や態度・価値については、正課教育だけでなく、正課以外の大学の多様な活動・環境(課外活動や社会体験、寮生活、異文化交流など)によって涵養されることが研究によって明らかになってきている。学士課程の目的である DP に基づく学修成果の修得に加え、一段高いコンピテンシー(社会で活躍する能力)を付加的に獲得するこうした活動・環境を「正課外教育」として位置付け、大学教育の全体像を正課教育と正課外教育の統合という新しい文脈で捉え直す。</p> <p>その第一歩として、本大学のスポーツ活動(体育会)と文化・芸術活動(文化総部、新聞総部、宗教総部、総部放送局、応援団総部)について、「学生の自主活動」を尊重しつつ、「大学の責任に基づく教育プログラム」へと発展させ、以下の(1)(2)を実現する。</p> <p>(1)クラブ活動自体のプログラム化 クラブ活動において、自ら目標を掲げて指導者や仲間とともに努力を重ね、練達する過程において、チームワークやリーダーシップ、問題発見・解決能力等の汎用的能力を獲得する、教育的価値の高いプログラムとして再構築する。</p> <p>(2)クラブ関連教養プログラムの開設 クラブ活動に関する教養(当該スポーツ・文化の歴史、哲学、社会学、心理学、マネジメント等)、キャリア形成支援、ボランティア・地域貢献、国際交流支援等のプログラムの開設を、既存の教育分野と調整しながら検討する。</p> <p>上記の項目を推進するにあたり、喫緊の課題であるスポーツ活動から取り組み始める。 統括する部署「スポーツ統括・振興課」を新たに設け、必要な人員体制を整備して、まず以下の基礎条件を確立する。</p> <p>(1)安全性・健全性の確保 学生部員の安全を守り、心身ともに健康を保つ。また、学生の指導について、大学として基本方針を定め、指導者の体制を整備し、指導方法(コーチング)の向上に取り組む。また、会計を含めた運営を透明化する。</p> <p>(2)学業優先の原則確立</p>				

競技者である前に学生として学業(正課)を優先する“Student-Athlete”であるという原則を確立する。その際、学業成績に基づく練習・試合の出場制限をルール化するとともに、チューター制等による学修支援を強化する。

### (3) スポーツ選抜入試と入学前教育

スポーツ選抜入試およびその合格者の入学前教育によって、受入段階で基礎学力をより厳密に担保する。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	体育会の学業条件制度(AE)基準2及び3に抵触する学生の割合	体育会所属学生数のうち、体育会出場資格基準2および3(卒業に5年超を要するペースで単位を修得している)に抵触する学生の割合
指標2	健全性の維持・向上	「指導者向け研修会」の実施件数、および指導者計画達成度(「定められた指導日数を満たした加盟団体数」を「加盟団体数」で除す。)
指標3	安全性の確保	学生トレーナーを保有する加盟団体比率(「学生トレーナーがいる加盟団体数」を「加盟団体数」で除す)、および学生トレーナー比率(加盟団体の「総学生トレーナー数」を「総競技者数」で除す)

#### 目標1<指標1>体育会の学業条件制度(AE)基準2及び3に抵触する学生の割合

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	資格基準2:5.8% 資格基準3:3.0%	資格基準2:5.5% 資格基準3:2.8%	資格基準2:5.2% 資格基準3:2.5%	資格基準2:4.0% 資格基準3:1.0%		
実績	資格基準2:0.8% 資格基準3:0.8%	資格基準2:0.7% 資格基準3:0.9%	資格基準2:1.2% 資格基準3:1.2%			

#### 目標2<指標2>健全性の維持・向上

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	—	(2021年度策定)	3件 90%以上	3件 90%以上	3件 90%以上
実績	—	—	—			

#### 目標3<指標3>安全性の確保

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	—	(2021年度策定)	団体:80% 学生:5%	団体:90% 学生:5%	団体:100% 学生:5%
実績	—	—	—			

## 2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
「スポーツ振興・統括課」を学生生活動支援機構の下に設置	策定段階	・スポーツ振興・統括課立ち上げ ・アスレチックデパートメント(AD)構想案策定 ・KG スポーツブランドの確立	AD 準備	スポーツアドミニストレーターの配置	AD 設置	
	2023年3月末段階	—	スポーツアドミニストレーターの配置	AD 設置		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2023年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健全性の維持・向上	策定段階	全団体の現状確認(指導、会計、コンプライアンス、広報/メディア等)および危機管理体制の確立	学生および指導者への教育体制の確立(指導、会計、コンプライアンス、広報/メディア等)および指導者育成・研修プログラムの検討	指導者の採用および学生指導者育成プログラム実施	内部通告担当および内部監査担当の設置	
	2023年3月末段階	—	—	—	—	
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	全団体に常駐指導者を確保※全団体は体育会であり、この段階では選別されている	常駐指導者に対する研修制度の策定		全団体に常駐指導者を必要数確保	
	2023年3月末段階	—				

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
学業両立	策定段階	Academic Eligibility (AE) 実施および修学支援制度の実施 ・学業トレーナーチームの設立 ・スポーツ振興・統括課教育プログラムの検討、開発	公欠・追試制度等の見直し	スポーツ振興・統括課教育プログラムの確立	学業不振者(AE 抵触者)の分析、検証および教育プログラムの単位化検討	正課教育、正課外教育のタイムスケジュール確立	
	2023年3月末段階	—	—	—	—	—	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	体育会員の10%が教育プログラムを受講					
	2023年3月末段階	—					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
安全性の確保	策定段階	安全確保プログラム確立および安全管理/危機管理マニュアルの作成 アスレチックトレーナー(AT)、ストレングストレーナー(ST)の増員	学生トレーナーチーム(SAT)の設立	体育施設および練習場の確認と安全性の精査(高温、落雷、暴風等)	体育施設および練習場に安全確保(天災等)用施設の確保	医師の常駐体制構築および保健館分室機能の設立 カウンセラー雇用およびカウンセリング室の設置	
	2023年3月末段階	AT1名、ST0.5名増員	—	—	—	—	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	大学と医療機関との提携	体育会クラブ・大学・医療機関との提携方法の策定	チームドクター制度の確立	体育会クラブ・大学・医療機関との提携		
	2023年3月末段階	—					

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地域連携・企業連携	策定段階	全団体の地域貢献活動状況精査および地域連携プログラム策定	産官学連携担当の設置および地域連携プログラム(ボランティア)の確立	初等教育・中等教育団体との連携案策定	体育会クラブの10%が地域連携プログラムを実施	
	2023年3月末段階	—	—	—	—	
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	体育会クラブの10%がスポンサー契約(金銭、施設等)				
	2023年3月末段階	—				

### 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円

2019年度 承認

2020年度 承認

2021年度 承認

2022年度 承認

2023年度 承認

2024年度

左記以降

非公開

人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							

#### 4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	2019年度はスポーツ振興・統括課を新たに設け、SAの採用が決定した。2019年度からは、Academic Eligibility for KG athletes (AE) が導入された。AEでは、修得単位数不芳者を対象に修学支援プログラムを実施し、2019年度秋学期終了時点での指標における実績値は高水準であり、正課教育とスポーツ活動との両立を実現する学生も増加したと言える。
2020年度	2020年度はSAを採用し、KGADの中期的計画策定の助言や企業連携提案を受けた。また、学業面では追試要件に競技会への参加を加えることについて承認を得ることができた。KGADの運営面については、MGスポーツ株式会社と共同運営を行うことが決定し、KGAD独自のホームページが完成した。
2021年度	2021年4月、競技スポーツ局(KGAD)を創設した初年度の加盟団体数は15団体19チームとなった。MGスポーツ株式会社とも連携し、KGAD Webサイトを創設と共に立ち上げ、6月には学生広報チームを組織し、公式You Tubeチャンネルで番組「KGスポーツスターズ」のライブ配信を含め、体育会各部のスポーツ取材、番組制作など行った。
2022年度	
2023年度	
2024年度	

## 5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	課題：修学支援制度の充実化、学業両立の推進、常駐指導者の増員、指導者教育の充実化、スポーツ研究、担当部局の拡充
2020 年度	2020 年度は競技スポーツを実施する学生団体に、最低限必要な体制構築に関する指針作成など、従来以上に学生アスリートの安心・安全に注力するための活動を行う。また、新たな試みとして、SA という職を設け、具体的な正課外教育プログラムを検討し、さらに、学生アスリート向け修学支援プログラムも拡充する。
2021 年度	2021 年度は MG スポーツや KGAD 内に設置する学生団体と連携をして広報活動や教育プログラムの検討を進める。また、加盟団体の指導者等との接点を増やし、競技部の課題についても把握し、解決に向けて検討を進める。ただし、昨年から猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症による影響でどの程度競技部と接点を持てるか、学生を中心とした活動ができるかが不明瞭であり、この点が課題となる。
2022 年度	加盟団体に対して安全性の確保、健全性の確立、学業との両立、競技力の向上、大学スポーツ界および地域社会への貢献などの施策を企画・実施する。特に安全性・健全性に関する講習会等については優先して開催し正課外教育の実現を目指す。また未加盟団体については競技スポーツ局設置の趣旨に対して理解を促すよう説明会の開催、随時相談などを行い加盟申請につなげる。今後は MG スポーツの協力により KGAD の活動意義を理解しサポートして頂ける企業にコンタクトを取り、スポンサーシップ/パートナーシップの獲得活動に取り組んでいく。
2023 年度	
2024 年度	

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	<p>スポーツ振興・統括課の設置を認めます。</p> <p>アスレチックトレーナー及びストレングストレーナーについては、その配置を認めますが、利用状況の詳細把握に加え、効果検証方法を定めてください。</p> <p>女性アスリートシンポジウム・熱中症対策セミナーと熱中症対策機器に関わる経費については、既存予算にて対応ください。なお、熱中症対策機器の利用方法については、詳細な運用方法を定めてください。</p> <p>組織体制としては、事務職員 1 名を配置する方向とし、人事部にて対応します。なお、指導者教育係については、2019 年度一年かけて、採用職種・形態・業務委託等もあわせて検討してください。</p> <p>学生活動支援機構長補佐については、保留とします。スポーツ振興・統括課設置以降、実際に配置が必要となった場合、将来構想推進 WG での承認を得た上で、対応いたします。</p>
2019 年度	<p>アスレチックトレーナーおよびストレングストレーナー外部委託費について、昨年からの継続を認めます。</p> <p>学内メディア運営については保留とします。スポーツ・アドミニストレーター着任後、メディア運営の詳細が定まった段階で、将来構想推進 WG にて判断します。</p> <p>修学支援プログラムおよび教育プログラム運営費の実施を認めます。ただし、教育プログラム運営費の概算費用については保留とし、内容詳細が定まり次第、将来構想推進 WG にて承認の上、予算外申請してください。</p> <p>2021 年度 KG-A 設置に伴う準備として、スポーツ・アドミニストレーターの配置を認めます。</p>

	組織体制としては、昨年度認めた事務職員 1 名の継続配置を認めます。
2020 年度	<p>アスレチック/ストレングストレーナー、修学支援プログラム、スポーツ・アドミニストレーターの継続実施を認めます。          学内メディア運営の実施を認めます。KGAD 加盟団体の参画を得て、内容の充実を図ってください。今後、成果指標・目標値を設定してください。          NCAA への公務出張については、一般事業ガイド予算で対応してください。</p> <p>2021 年度 KGAD 設置に関する組織体制として、専任職員 1 名の継続配置を認めます。なお、専任職員 1 名の増員については、配置する方向とし、人事部にて対応します。</p> <p>KGAD 指導者制度の実施を認めます。ただし、概算費用については、団体数等未定のため保留とします。内容詳細が決まった段階で、将来構想推進 WG の了承を得てください。</p>
2021 年度	<p>アスレチック/ストレングストレーナー、修学支援プログラム、学内メディア運営、スポーツ・アドミニストレーターの継続実施を認めます。          KGAD 指導者費用は、実績を踏まえ、認めます。加入団体の申請状況により、追加費用が必要な場合は、将来構想推進 WG での了承を得て、予算外申請してください。</p> <p>2021 年度 KGAD 設置に関する組織体制として、専任職員 2 名の継続配置を認めます。</p> <p>機構長補佐職務手当は、保留とします。</p>
2022 年度	<p>アスレチック/ストレングストレーナー、修学支援プログラム、学内メディア運営・スポーツアドミニストレーターの継続実施を認めます。          AE 判定該当者学修支援については、内容詳細が決まった段階で、あらためて査定を行います。</p> <p>KGAD 指導者費用は、実績を踏まえ、認めます。加入団体の申請状況により、追加費用が必要な場合は、将来構想推進 WG での了承を得てください。</p> <p>KGAD を安定的に運営する組織体制として、専任職員の継続配置および機構長補佐の職務手当を認めます。</p>



## 7. Total Review の結果

## 【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<p>・2019 年度、学生活動支援機構の下にスポーツ振興・統括課を設置。 2021 年度、競技スポーツ局を設置することで、着々と進行している。 組織新設だけでなく、専任事務職員の増強や Sports Administrator を雇用することで、活性化をめざしている。</p> <p>・指標 1「AE 基準 2 及び 3 に抵触する学生割合」の成果が素晴らしいため、目標値を変更する必要がある。</p> <p>・修学支援プログラムにおいて、学力向上や競技への復帰に一定の効果を出しているが、引き続きプログラムの充実に向けた取組が必要。</p>	<p>継続</p> <p>・ 廃止</p>	<p>・KGAD 加盟団体への財政支援と、強化指定クラブ制度との重複の検討</p> <p>・KGAD 参加クラブの諸活動の状況や成果を学内外に提供するコミュニケーションツールの検討</p>

## 【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<p>継続</p> <p>・ 廃止</p>	